



姫路獨協大学
看護学部
海外研修報告書
2019



Tom Bradley International Terminal (LAX)



Santa Monica Pier



Santa Monica Pier



Santa Monica Pier



Beverly Wilshire, Beverly Hills (A Four Seasons Hotel)



Breakfast at Embassy Suites by Hilton Arcadia



Embassy Suites by Hilton Arcadia Shuttle Van



Hope Drive at City of Hope (Day 1)



Helford Clinical Research Hospital Guided Tour



Under the Bridge of Hope (2nd Floor)



Guided Tour



Positive Image Center



City of Hope Museum



Integrated Care Service



Patient Education Teachback



Child Life Services



Home Party



With the Chair of Supportive Care Medicine



Fountain



Westfield Santa Anita



Tom Bradley International Departures



Tom Bradley International Terminal



Gate 135 Tom Bradley International Terminal



Gate 135 Tom Bradley International Terminal

目次

1. 海外研修募集要項	15
2. 旅程と宿泊施設	17
3. 海外研修実施計画	18
4. 第2回海外研修を引率して	19
5. 学生の海外研修（City Of Hope）に同伴して	20
6. 参加学生による報告	21
7. Nursing Observership 2019	27

海外研修募集要項

<研修目的>

- ①カリフォルニア州における医療・看護の状況を実体験することにより、日本における医療・看護の在り方を深く理解する力をつけるため。
- ②多様な文化的背景が異なる人たちを理解することにより、広い視野とグローバルな視点を持つため。
- ③学生自身が実体験を通して、自己の課題に気づき、今後の学習を促進させるため。

<実施期間>

2019年3/16 (土) 関西国際空港 (KIX) から出国

2019年3/24 (日) KIXへ帰国

※研修は3/18 (月) から3/22 (金) の5日間

<研修旅程>

※ロスアンゼルスとの時差は、日本時間マイナス16時間。デイトライトセービングタイム中

3/16 (土) 2:00 p.m. (集合) KIX 第1ターミナル4階

5:45 p.m. JL 060

3/16 (土) 11:50 a.m. ロスアンゼルス国際空港 (LAX) 到着後にバンでホテルへ移動

3/17 (日) 観光・研修準備日

3/18 (月) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修①

3/19 (火) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修②

3/20 (水) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修③

3/21 (木) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修④

3/22 (金) 9:00 a.m. - 5:00 p.m. City of Hope にて研修⑤

3/23 (土) バンでホテルからLAXへ移動

1:45 p.m. JL 069

3/24 (日) 6:15 p.m. KIX 第1ターミナル1階到着 (解散)

<研修施設>

City of Hope

1500 East Duarte Road, Duarte, California 91010 USA

Phone: +1-626-256-4673

<宿泊施設> ※ 1 部屋に 2 名

Embassy Suites by Hilton Arcadia Pasadena Area
211 East Huntington Drive, Arcadia, California 91006 USA
Phone: +1-626-445-8525

<対象学生>

看護学部 2 年生（暫定的に 2 年生を対象とし、将来的に他学年が対象となる可能性あり）

<参加定員>

6 名（過去の学内成績等を吟味し、試験・面接等の選考試験を実施する）

<引率教員>

C. A.（看護学部教授）
I. I.（看護学部准教授）

<必要経費>

大学から研修費（1 名 5 日間 \$ 1,000）の補助がある。（この補助金額は将来的に変更の可能性あり）

<募集期間>

4/6（木）～5/12（金）

<申込方法>

別紙「看護学部 海外研修 参加申込書（参加承諾付）」に記入し、上記募集期間に本部棟 9 階事務室へ提出すること。

<決定通知>

参加学生の決定は、5 月末日頃までに掲示する。（本部棟 2 階学生掲示板）

<その他>

- ・必要経費の振り込み手続き等の詳細については、決定通知後に参加学生に対して連絡する。
- ・基本的に毎週 1 回集合し、研修準備を行うため、無断欠席は認められない。

旅程 (時差 : 日本時間マイナス 16 時間)

- 3/16 (土) 5:45 p.m. (KIX 出発) JL060
- 3/17 (日) 観光
- 3/18 (月) 研修①
- 3/19 (火) 研修②
- 3/20 (水) 研修③
- 3/21 (木) 研修④
- 3/22 (金) 研修⑤
- 3/23 (土) 1:45 p.m. (LAX 出発)
- 3/24 (日) 6:15 p.m. (KIX 到着) JL069

宿泊施設

Embassy Suites by Hilton Arcadia Pasadena Area
211 East Huntington Drive, Arcadia, CA 91006 USA
TEL: +1-626-445-8525
FAX: +1-626-445-8548

海外研修実施計画

	学生	事務局	引率教員	海外研修委員会	教授会
4月	申込、健診	旅行会社見積・決定	帰国報告、次年度説明会、参加受付	選考試験日時調整、学生へ連絡	
5月	申込締切、選考試験				進捗状況報告
6月	誓約書、旅券等申請		旅券、ホテル部屋割		選考結果報告
7月	事前学習	旅費見積			
8月	QFT等感染症抗体価確認		QFT等感染症抗体価確認		
9月	事前学習		緊急連絡網、英文医療書類作成		
10月	事前学習		英文医療書類作成		
11月	事前学習		英文医療書類作成		
12月	事前学習、旅費入金、ESTA	研修費送金	ESTA		
1月	事前学習				
2月	事前学習		次年度申込確認		
3月	事前学習、渡航直前説明会		渡航直前説明会		

※渡航直前の12月末までに全ての準備を完了させること。獨協医科大学のCOH海外研修引率教員との連絡は重要。

第2回海外研修を引率して

CA

2019年3月16日（土）に関空から出国し、3月24日（日）に帰国しました。昨年、シティ・オブ・ホープ（COH）での研修最終日にプログラムを担当者と再検討しました。その結果が反映されて、さらに良くなった時間配分と新たな講義（別紙添付）が今年は組み込まれていました。

第1回目の研修のための事前勉強会は、18回実施しましたが、今回は26回実施しました。予想されるプログラムの事前予習が主な内容ですが、どれだけ参加学生が個人として意見を物怖じすることなく述べることができるのか、この一点に焦点をあてました。次年度は30回以上事前学習を行う予定です。足りませんから。

事前学習の結果、最初の3日間だけは私によるフルサービスの通訳付き、4日目から徐々に通訳を控え、講義担当者やスピーカーには、難しい用語は言い換えて説明を行っていただきましたが、その甲斐あって、最終日の午前中頃には、スピーカーの話し方や速度にもよりますが、悲観的に見ても60%以上は学生が内容を理解できていました。最終日に近づけば近づくほど参加学生は、物怖じすることなく発話することができるようになっていました。普段人前で発言することに慣れていない学生が徐々に変化していくことを見ることは引率者として嬉しいです。

前年と比較して特筆すべきことは、学生たちがアメリカの食べ物を好んだことです。海外において、たとえ1週間だけの生活でも、現地の食べ物が口に合わないと、なにかと消極的になってしましますが、この点に関しては、安心できました。持論ですが、かつ丼を食べながら同時にチョコレート・バーを食べ、それなりに美味しいと感じられれば、新しい状況にも怯むことなく対応できると私は信じています。これは今年で通算15回目となった海外研修引率業務から思えたことです。

今後の海外研修は、参加学生の反応と理解度を見ながら、現状プログラムの微調整を行っていただければ良いと思えました。

学生の海外研修（City Of Hope）に同伴して

II

20 数年前に Johnson Center Lucile Packard Children's Hospital を小児病院視察の目的でサンフランシスコに行って以来 20 数年ぶりのアメリカであった。Hearing も Speaking ももう少しできるつもりで今回の海外研修に同伴したが、英語に接することのない日常生活を送っていると、ここまで聞き取れないか、という感じであった。Johnson Center Lucile Packard Children's Hospital の視察では最新の小児の療養環境について多くのものを持ち帰り、臨床に還元したが、あの時もアメリカはやはり医療の技術のみでなく考え方などすべて最先端をいっている、と同行した医師や看護師と感動したのを思い出す。

今回のロサンゼルス City Of Hope を訪問し、同様の感動があった。

Cancer に対する最先端の研究機関を有し最先端の医療技術を提供している。施設も目を見張るものがある。Cancer の治療のみでなく心の治療もしっかり確立しているところが日本と大きく違うところではないだろうか。City Of Hope で働く職員は多種多様で日本にはない職種も多く見受けた。特に職種と職種の間をつなぐナビゲーターの活躍は重要であると思われた。また、特定看護師の活躍は医師の補助的役割を果たしており欠かせない存在であった。日本の特定看護師の活躍はこれからだと思われた。

他方、日本のように皆保険が実施されていないアメリカでは、受療対象は上層階層に限られるところに健康管理に携わる看護職や CW の苦労があるようであった。

次々に講義が進み、学生の Hearing 力も追いつかない中でせっかくの貴重な講義が不消化に終わってしまったところもあったのではないかと残念に思う場面もあった。日本の Cancer 治療や看護の現状など学生の学習のレディネスも十分でなかったところも見受けられた。語学力がせっかくの貴重な学びの障害にならないようにさらなる事前の教育が必要ではないかと思われた。

手術室を紹介していただいた男性看護師が最後に学生に伝えた言葉が印象深い、『看護はお金をもらうからするのではない、患者さんから多くのことを謙虚に学び、看護という仕事に誇りをもてる看護師になってください。』最後の言葉はゆっくり学生にもその意味を聞き取れるように話された。アメリカも日本も看護の心は共通だと、胸がつまる思いがしたのは私だけだろうか。

看護学部海外研修

KS

私がこの海外研修を通して特に印象に残った講義は、3つあります。

1つ目は、チャイルド・ライフ・スペシャリストから、がん患児や親ががんになった子どもなどへの対処方法に関する講義を受けたことです。このチャイルド・ライフサービスは日本でも広がりつつある分野ではありますが、まだ担い手が少ないのが現状であり、テレビなどでもチャイルド・ライフ・スペシャリストの必要性が報道されています。形見になる親の手形ペイント付きクッションや自身の変わり身になる不機嫌な人形、分かりやすい疾患や治療の説明など、様々な境遇にある子どもたちへ様々な方法で心理的に安定状態を提供していることが分かりました。これにより子どもがより安心して治療に専念できるため、とても素晴らしいと感じました。また、チャイルド・ライフ・サービスによって得られる子どもの安心感は看護師や他の医療従事者にとっても有益だと思いました。

2つ目は、クリニカル・ソーシャル・ワーカーから、がん患者（主に乳がん）のパートナーへの対処に関する講義を受けました。男女の違いによって生まれる価値観などの差を理解したうえでパートナー間に介入してパートナー同士の結びつきを強化していくことで、パートナーと二人で乗り越えていけるように援助するというのが理解できました。また、学生から「がん患者とそのパートナーはクリニカル・ソーシャル・ワーカーと話しをする時は同室で行うのか。」という問いに対して「患者とそのパートナーの間では完全にオープンな状況するため必ず同室行う。」との回答を頂きました。おそらく米国に比べ日本では、パートナー間であってもプライバシーはより確保されるため、日本でこの考え方を広めるためにもこの講義を受けた我々はより考えていく必要があると感じました。

3つ目に、Becky Andrewsさんから受けた、患者とその家族が病院長と直にお会いして利用者側としての意見を病院側と共有できるシステムについての講義を受けました。お話を受け始めた時は、「日本などには少ない欧米の寛容な国民性があるからこの様な事が可能なのだろう。」と思いましたが話を聞くうちに、Andrewsさんのチームによる尽力があってこそだと感じるようになりました。この様な活動がアメリカだけでなく世界各地にでも広まって行くなれば、私も貢献できればと強く感じました。

私は、今回の研修を通して得た知識や考え方などを学業や国家資格取得、そして看護師として勤務するときなどにも役立てていきたいと考えています。

海外研修で印象に残った2つの講義

HS

1. Child Life Services

病院に関わる全ての子供たちとその家族が対象となっている。チャイルド・ライフ・サービスの主な業務は、子供たちとその家族を対象に医療チームの一員として心理社会的な支援を行うものであるという説明を受けた。入院する子供にとって、病院はそれまでの日常から切り離された慣れない場所であり、痛みや恐怖の伴う検査、処置、および治療を受ける場所でもある。また、その子供の兄弟、家族にとっても不安や恐怖、孤独を感じる場所になり得る。City of Hope では、おもちゃを使用する治癒的あそびや実際に医療処置がされているかのように見える人形を使用して、子供なりの医療体験に力をいれている。子供の発達度合いや心理的状况を良く判断したうえでスタッフによる準備や患者教育などの介入がされている。子供は当然ながら知識の乏しい部分があり、その前提としての理解力の不足があるが、そのような子が、急に髪が抜けきってしまった親やたくさん人の管に繋がれている親をなんの知識もなく見た場合、どのようになるのであろうか。その子はひどい悲しみや恐怖に苛まれることになる。その影響から心に傷ができてしまうことも考えられる。そういった因子を少しでも軽減するために Child Life Services は素晴らしく、この概要説明を講義で受けた際にはとても感銘を受けた。なによりひとりひとりの子供とその家族に寄り添いながら乗り越えていく力を支援したいとの篤い思いが感じられた。

2. Supportive Care Medicine

City of Hope では癌に対する最先端の医療を提供していることから、Supportive Care の説明はとても丁寧で興味関心がとても湧いた。この取り組みは、癌患者の QOL 向上にとっても重要であり、治療過程における支援の適切なバランスが大切であることも学修できた。一般的な治療方法として、化学療法が一例に挙げられ、その場合における身体的変化、心理的負担により苦しむ患者に対してどのように介入すべきかが説明された。症状管理、リハビリ、再発予防、そして終末期ケア、それぞれの段階における Supportive Care のかわり方は不可欠であり、キャンサー・サバイバーの社会復帰に向けた支援、在宅ケア、まで守備範囲はとても広い。私自身がこの講義を聴くまでは、ここまで幅広く対応しているとは想像もつかなかった。実際に日本の癌治療のことを考えてみたが、ここまで手厚いサービスはないのではないかと思えた。国民性や文化的背景の違いがその理由なのかもしれないが、それほどまでに Supportive Care は手厚く、患者とその家族に寄り添うスタッフの姿勢に感銘を受けた。このような取り組みはなかなかないものであり、しっかりと念頭に入れて、今後の実習や将来的な臨床現場に生かしていきたい。

海外研修レポート

CF

海外研修で特に印象に残ったことは、Patient Education Teachback と Tour of the Helford Clinical Research Hospital である。

Patient Education Teachback では、指示したことを患者自身に繰り返し言ってもらい（Teach Back）理解度を確認する重要性和気をつけるべきポイントを学んだ。患者に同じように指示や説明を行っても、人によって理解の仕方が想像以上に異なり、治療が遅れたり悪化したり、十分な治療を行うことができない。このようなことを防ぐために Teachback が必要となってくる。講義では 10 個のポイントを学んだ。繰り返して言ってもらった後に紙に書いて渡すことや「私はあなたのことを気にかけている」ということが分かるような声のトーンや話し方、患者と医療従事者との座るとき位置などがポイントとして含まれていた。私がこの 10 個のポイントの中で最も重要だと思うことは説明するときの場所である。患者にとって病院は非日常的な場所であり、医療従事者とは恐怖を感じる対象であることが多い。そのような人たちがうるさい場所、暗い場所などで自分の疾患や治療について説明をされても理解することや質問をすることは難しいだろう。そのため患者が少しでも安心できる環境をつくることは大切であると思った。Teachback することで患者自身も安心することができ、回復促進につながるため、ポイントをおさえどのような声の使い方をすべきか、リラックスできる環境とはどのようなものかなど考え、今後学んでいこうと思う。

Tour of Helford Clinical Research Hospital ではとても大切なことを学んだ。説明では手術の時に使用する機械や防護服、術中の患者との距離についての話などを聞いた。また看護師になってから仕事に対する誇りや思いについてお話を伺えた。とても短い時間であったが、濃い時間を過ごせた。

今回の海外研修では日本と異なる言語、環境、文化において多くの人と会うことができ、また日本では聞いたことがない話も聞くことができた。多くの職種が 1 つのチームとなり患者に最大限できることを提供していることや、どういった思いで患者と向き合っているかなどの話を聞きとても刺激を受けた。また患者だけでなく家族もサポートすべき対象であることを知り、実際に行っていることや日本だったらどのようにサポートすべきなのかも考えることができた。今後は感謝の気持ちを忘れず学んだことはもちろん、私が実際に感じたことや見たことを活かして学習に取り組んでいくつもりである。

海外研修を受けて印象に残ったこと

RM

今回の海外研修において印象に残っていることは、文化の違いだ。日本ではカトリックやプロテスタント、イスラムといった宗教に所属している人は少ない。しかしアメリカでは、ほぼ全国民が何らかの宗教に所属している。そのため、City Of Hope では危篤近くになると聖職者を病室へ呼んでいる。私が驚いたことは、医療チームの中に医師や看護師、薬剤師のほかにも聖職者もチームの一員に入っていることだ。日本でいうと、死を間近になるとお坊さんをお呼びして一緒にいる。日本の感覚では、もう助からないと知らせているみたいで不愉快に思うことがあるが、ここでは、神の存在があることで例え重篤な疾患であっても精神を保っているのだと感じた。もう一つ文化が違うと思ったことがある。これは渡航前でもそうだが、一番の驚きかもしれない。それは、City Of Hope のほとんどの建物または一部が寄付でできていることである。日本でも寄付活動が行われているが、被災地に募金をしたり飲食物などを寄付したり、なんらかの行動をする。しかし、ここでの寄付は椅子の寄付や花の寄付、そして寄付金の額も日本では比べ物にならない程の高額寄付がなされている。糖尿病や血液疾患に関する研究室の建物や新しくできた博物館も全て寄付金によって建てられ、その大きさを見て驚いた。病院の敷地内に研究室があるため、常に最新医療技術を見つけ、それを臨床に提供できる医師にとって素晴らしい環境であり、治験は日常的に行われていると聞いた。重篤疾患患者が対象となるが、少しでも生きる希望が持てるので、患者にとってもいい環境と思った。また City Of Hope では以前に病院で治療をし、癌に打ち勝った患者がボランティアとして働いている人が多い。治療をして頂いた感謝の気持ちをボランティアとして働いたり、寄付したりすることが、日本と比べて気持ちの表し方が違うと思ったし、感謝の気持ちを形にできることが凄いなと思った。日本でも取り組んで欲しいと思ったことは、化学療法を受けて副作用によって脱毛した患者にかつらやメイクなどによってポジティブ・イメージを持ってもらうサービスが凄く良いと思った。多くの方が、特に女性では髪の毛を失うと「こんな姿は誰にも見せたくない」「こんな自分はイヤ」となってしまう。しかし、見学したところではクオリティーが高いウィッグや誰でも簡単にできるバンダナやスカーフの巻き方、またそれに合ったメイクや化学療法によって傷ついた皮膚の保護クリームなどが販売されており、同級生が体験していたが、本当に毛が生えているように、違和感がなかったので、周りの視線を気にせずいられるのでこういう取り組みがあったら良いなと思った。海外研修で、日本と米国西海岸の医療の取り組みの違いを知って医療に対する視野が広がられたように感じた。City Of Hope では日本と違いソーシャル・ワーカーが多かったり、Patient Navigator がいたり医療従事者やチーム医療人数も多いが、日本では日本にあった医療に組み込み海外研修で学んだことを参考にしながら自分らしい看護師になりたいと思った。

海外研修を終えて

MN

海外研修の講義の中で、私が印象的に感じたのは、『カップルコーピング』の講義です。他の講義も大変わかりやすく興味深いものばかりでしたが、日本との差を顕著に感じた『カップルコーピング』についての講義は私の考え方の幅を広げてくれるものでした。その講義の中でも特に印象的であったのは、City of Hope では『カップルコーピング』はパートナー間での秘密は全くない状態で行うということです。日本では秘密がないことはありえないことで、パートナーに言いにくいこともあるだろうからと別々に話を聞くことも多いと、大学の講義で学んでいた。そのためこの話を聞いたときはとても驚きました。それと同時に、秘密にしておくと後々面倒なことになる予想も難しくなく、言いにくいことも腹を割って話すことで齟齬を無くしパートナーのことをより理解し、疾患や治療について前向きに向き合ってもらうことが可能になると思いました。

City of Hope で行われている『カップルコーピング』はソーシャル・ワーカーが行っていましたが、日本のソーシャル・ワーカーは医療的なコーピングは行いません。私は、『カップルコーピング』のことを家族支援・教育だと捉えていますが、日本でそれを実施するのは看護師にあたると考えています。しかし、日本ではまだこの分野は専門性に向け、専門看護師や認定看護師もありません。そもそも日本ではいまだに看護師と医師の間に格差が生じており、共同という言葉はなく、医師の指示通りに動く召使いのようになっているように感じまし、またその格差のせいで動きにくいということもあると思います。近い将来変わるでしょうが。しかしながら、アメリカでは多くのナース・プラクティショナーが存在し、看護師の免許も更新制度があるため、より専門性に優れ、医師との格差もほとんどなく、ほかの専門職と連携しながら、専門職であることにプライドを持って職務に当たっているように感じました。そのため、日本で家族支援・教育をより深く行うには視野を広く持ち、自分から情報を得て、知識として身に付けていくことで、他職種との共同に努めることが必要だと感じました。

看護師自身が専門職だというプライドを持ち、幅広い知識を有し、扱いながら患者さんやその家族と向き合い、その人たちに必要な看護を提供できるようになることが大切であると、この海外研修をとおして自分の理想の看護師像を深めることが出来たように思います。

海外研修

HS

私が、City of Hope での研修の中で、特に印象に残ったことは、2つあります。

1つ目は、プラクティショナーナースについての講義です。私は、海外研修で初めてプラクティショナーナースについて知りました。プラクティショナーナースとは、医師とも看護師とも異なる看護職であり、一定の診断や治療を行うことができ、日本では10人以下ととても少ないが、アメリカでは、プラクティショナーナースに関する体制が日本よりも構築されているため、10万人以上ものプラクティショナーナースが存在しており、アメリカと日本の違いを知ることができ、とても印象に残りました。他にも、日本では、看護協会がプラクティショナーナースについて反対し、医師会が支持する一方で、アメリカでは、看護協会がプラクティショナーナースについて支持し、医師会が反対しているという国の違いも知ることができ、とても興味深かったです。アメリカでは、看護の仕事を見守る看護補助が行い、プラクティショナーナースは診断や治療に専念できるようになっているが、日本では看護の仕事も全てプラクティショナーナースが行う必要があるため、プラクティショナーナースの人数がなかなか増えないという問題もあるという話も聞くことができ、印象深かったです。

2つ目は、Patient Education Teachback についての講義がとても印象に残っています。Teachbackとは、患者さんが説明された内容について、理解できているかどうかを確認するため、患者さん自身にも説明してもらうという方法であり、講義の中で特に印象に残っているのが、6人同時に、目を瞑ったまま、長方形の黄色い紙を、相手の指示に従いながら破ったり、折ったりするといったものです。これは、同じ指示内容を聞いても、指示によって出来上がった紙は、穴が空いている箇所が異なったり、折り目のついている箇所も違っていたり、全員違っており、人によって受け取り方はそれぞれであり、皆んなバラバラであるという事を伝えるものでした。このことから、患者さんが病気や治療について説明された事について、理解できているのかどうかなど、Teachback する事が重要であることを学びました。人によって受け取り方は、全然違う事を大学でも学んできたが、この Patient Education Teachback についての講義で、6人それぞれの黄色い紙を見て、「同じように指示どおり折ったり破いたりするだけでも、誰一人として同じ紙の状態にならない」という言葉にとっても納得し、印象に残りました。

Himeji Dokkyo Nursing Observership 2019 - City of Hope Campus

Saturday, March 16, 2019

Arrive at Embassy Suites, Arcadia

Students:
 1. Ms. C: 4. Mr. KG
 2. Ms. RA 5. Ms. HG
 3. Ms. MB 6. Mr. YG

Professors:
 Ms. I=
 Mr. P5

Meet each day in the Lobby of Embassy Suites for shuttle bus to City of Hope

Day 1 - Monday, March 18, 2019

Class Location - Needleman 1 Conference Room

8:30 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
8:50 AM	Arrive at City of Hope - Patient Resource Coordinator at the front of City of Hope by the Spirit of Life Fountain
	Proceed to Needleman 1 Conference Room
9:00 - 10:00 AM	Welcome and Ice Breaker with Patient Resource Coordinator
10:00 - 11:00 AM	Orientation to the Interdisciplinary Integrated Team: Department of Supportive Care Medicine, Department of Supportive Care Medicine
11:00 AM -12:00 PM	Travel via campus shuttle to Campus Operations/FLASH Building - Take photos and obtain badges
	Travel back to Cafeteria via campus shuttle
12:00 - 12:50	Lunch - Tour of Campus Dining Options
	Proceed to the Spirit of Life Fountain
1:00 - 2:00 PM	Tour of City of Hope with Visitor Services Associate
2:00 PM	Return to Needleman 1
2:15 - 3:00 PM	Defining Roles - Review the Department of Supportive Care Organizational Chart
3:00 - 3:30 PM	Pre-Test Evaluation Discussion, Preparing for Day 2
3:45 PM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of Spirit of Life Fountain for travel to Embassy Suites Hotel

Day 2 - Tuesday, March 19, 2019	
Class Location: Graff Library - G104 Conference Room	
8:15 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
8:50 AM	Arrive at City of Hope, Meet BOA by Spirit of Life Fountain - Proceed to Biller Resource Center
9:00 - 10:00 AM	Tour of the Sheri & Les Biller Patient and Family Resource Center Operations Manager
10:00 - 10:15 AM	Proceed to Graff Library - G104 Conference Room
10:15 - 11:00 AM	Congratulations you Survived Day 1! Review Supportive Care Clinical Triage Model
11:00 - 11:50 AM	Introduction to SupportScreen, Manager SupportScreen
11:50 AM - 12:50 PM	Lunch
12:50 PM	Proceed to Graff Library - G104 Conference Room
1:00 - 2:00 PM	Introduction to Oncology Nursing: Part 1: An Overview, Director, Education EBP & Research Clinical Practice and Professional Education
2:00 - 3:00 PM	Part II: Basic Cancer Lecture
3:00 - 3:15 PM	Break
3:30 - 4:30 PM	The Role of the Patient Navigator, Patient Navigator
4:45 PM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of Spirit of Life Fountain for travel to Embassy Suites Hotel

Day 3 - Wednesday, March 20, 2019	
Class Location: Graff Library - G104 Conference Room	
9:15 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
9:45 AM	Arrive at City of Hope - Proceed to Graff Library - G104
10:00 - 11:00 AM	Healthcare in America, Administrative Directive, Department of Supportive Care Medicine
11:00 AM - 12:00 PM	The Role of the Nurse Practitioner within the Supportive Medicine Team, Nurse Practitioner, ACNP, APRN, Nurse Practitioner, Division of Clinical Supportive & Palliative Medicine
12:00 - 12:50 PM	Lunch
12:50 PM	Proceed to Graff Library
1:00 - 2:00 PM	Patient Education Teachback, MPH, MCHES, Senior Health Education Specialist
2:00 - 3:00 PM	Integrated Care Service, Clinical Social Worker
3:00 - 4:00 PM	Partnering with Patients: The Patient and Family Advisory Council,
4:15 PM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of Spirit of Life Fountain for travel to Embassy Suites Hotel

Day 4 - Thursday, March 21, 2019	
Class Location: Graff Library - G104 Conference Room	
8:15 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
8:45 AM	Proceed to Graff Library - G104
9:00 - 10:00 AM	Couples Coping Together with Cancer Program, LCSW, Clinical Social Work
10:00 - 11:00 AM	The Role of Nursing within the Interventional Pain Team, RN, Division of Interventional Pain Medicine
11:00 - 12:00 PM	Child Life Services, Child Life Specialists
12:00 - 12:45 PM	Lunch
12:45 PM	Proceed to Amini Building
1:00 - 1:50 PM	Tour of the Amini Transfusion Apheresis Center, Manager Therapeutic Apheresis, , Dr. S.
1:50 PM	Proceed to Graff Library - G104
2:00 - 3:00 PM	Symptom Management, Division of Clinical Supportive & Palliative Medicine
3:15 PM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of Spirit of Life Fountain for travel to Embassy Suites Hotel
4:30 PM	Meet Shuttle in front of Embassy Suites Hotel for travel (check taxi or shuttle)
5:00 - 7:00 PM	Dinner at the home Guests will include members from the Department of Supportive Care Medicine

Day 5 - Friday, March 22, 2019	
Class Location: Graff Library G104 Conference Room 8 am - 12:00 pm	
7:15 AM	Meet Embassy Suites Shuttle in front of hotel for travel to City of Hope
7:45 AM	Arrive at City of Hope Proceed to Helford Hospital - 2nd Floor Lobby
8:00 - 9:00 AM	Tour of the Helford Hospital Surgical Setting with RN, Clinical Educator
9:00 - 9:45 AM	City of Hope Souvenir/Gift Shop
9:45 AM	Proceed to Graff Library G104 Conference Room
10:00 -11:00 AM	Reflections of the Observership Experience, program evaluation and final debriefing - with Students
11:00 AM - 12:00 PM	Wellness Walk
12:00 - 12:30 PM	Proceed to Kaplan Building for Group Photo
	Proceed to Spirit of Life Fountain - Meet taxi for travel to off campus lunch location
	Experiencing American Cuisine -Off Campus Lunch- Meet Taxi by Spirit of Life Campus for travel to off campus
1:00 - 2:00 PM	Arrive at In n Out Location
2:00 PM	Meet taxi at IN-N-OUT for travel to Westfield Santa Anita